



いじめ根絶にむけて

4月から新しい環境での生活が始まり、少しずつ周囲との関係もできてきたのではないのでしょうか。さて、教室に掲示してある黄色いポスターは見てもらえましたか？5月1日（月）～5月31日（水）は、「いじめゼロ強調月間」です。いじめは苦しみや悲しみしか生み出しません。いじめは絶対にあってはいけません。この機会に、もう一度みんながいじめについて考え、いじめを根絶しましょう。そして、みんなが過ごしやすく、みんなが楽しい、雀宮中学校を築いていきましょう！

〇各学年のいじめゼロスローガン

【1年生】

「『やらない』『させない』『みのがさない』これをかけろ雀宮」
（1年3組 高柳 美羽）

【2年生】

「『たかが無視』 その考えが いじめの芽」
（2年1組 増渕 司織）

【3年生】

「いらぬ涙 なくして咲かそう 笑顔の花」
（3年6組 大竹 陽乃）

【いじめの4層構造】

いじめは、いじめを受けている「被害者」、いじめをしている「加害者」だけでなく、その周りに直接的な行動には出ないが、被害者のいじめられている様子を見て面白がっている「観衆」や、いじめられている人を見ても何もしない「傍観者」がいます。

傍観者はいじめをしていないかもしれませんが、いじめに立ち向かうことで、人を傷つける行為をやめさせることができるのです。しかし、いじめを目撃しても、何も言わず態度をはっきりさせなかったり、よくないことだとわかっているのに、いじめに加わったり、からかったり、笑ったりしたり、被害者を助けようとせずに無視したり、先生や大人に助けを求めなかったりすることは、いじめを「容認」していることになります。誰かがいじめられていたら、次は自分がいじめられるのではないかと、怖くて何も言えなくなってしまうかもしれません。しかし、傍観者になることは、いじめに間接的に関わっていることにもなるのです。いじめの最中に入っていくのは難しいかもしれませんが、後で被害者や加害者と話をしたり、先生や保護者に報告したりすることで、いじめをなくすことができます。「傍観者」の行動次第で、状況を変えることができるのです。

【情けは人のためならず】

「情けは人のためならず」ということわざを聞いたことがある人は多いでしょう。しかし、このことわざを誤解して解釈している人が実は大勢いるのです。「情け（思いやり）をかけることは、人のためにならない」と間違った現代語訳をしてしまうと、情け（思いやり）をかけることは結局その人の為にはならないという意味になりますがこれは間違いなのです。正しい現代語訳は、「情けは人のためではない＝（つまりは自分のため）」となるのです。「人に情けをかけておくと、巡りめぐってその情けが自分のもとへと戻ってくる」ということわざなのです。すぐには自分の利益にならなくても、人のために行動することは遠い未来の自分のためになります。つまり、今自分が周囲の人にとっての態度や言動は、いつかは自分に戻ってくるのです。この精神を忘れずにいれば、相手に思いやりのある穏やかな人間関係を築くことができるでしょう。